

令和2年3月11日

報道機関 各位

ヘリウム不足危機への対応として液化リサイクル事業を開始

富山大学では、文部科学省「設備サポートセンター整備事業」の採択を受け、平成30年4月より学内分析装置の共用化・最大活用化を推進しております。

その一環として、最近話題となっている寒剤ヘリウム不足・危機に対し、本学の設備の有効活用によって近隣の大学や企業をサポートする新事業を開始いたします。

つきましては、取材・報道方どうぞよろしくお取り計らい願います。

<概要>

稀少資源であるヘリウムは、寒剤として医療診断や各種ものづくり企業（半導体・光ファイバーなど）で使用されておりますが、日本は100%輸入に頼っております。そのため、現在の世界情勢の変動により著しく入手が困難な状況となっており、当面解消の見込みがない状況です。

本学研究推進機構極低温量子科学施設のヘリウム液化システムは、学内使用のヘリウム需要のみを対象に稼働しており、液化量に余裕があるため、昨年度より試験的に近隣大学からヘリウムの回収・搬入をし、本学の施設にて液化リサイクルし搬出しております。また、今後近隣の大学やものづくり企業をサポートできるよう新規事業スタートの準備を行っております。詳細は添付の資料をご参照下さい。

【設備サポートセンター整備事業とは・・・】

文部科学省では平成23年度より大学に設置された教育研究設備の共同利用等による有効活用を推進し、大学の学術研究の発展と優れた人材の育成および地元企業の振興にも貢献するよう全国各大学を対象に行っている設備サポート事業である。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 研究推進総合支援センター 設備サポート・マネジメントオフィス

TEL : 076-445-6713 (小野・根角) MAIL : setubi@ctg.u-toyama.ac.jp

ヘリウム不足危機対応 学内設備の有用で近隣の大学や企業の ヘリウム液化回収・リサイクル利用の支援

【背景】

ヘリウムは稀少資源でもともと日本での利用にあたっては100%海外から（米国・カタール等）の輸入に依存している。ところが近年の多くの報道にもあるような海外事情により、入手が極めて困難になっており当面このような状況が継続する見込となっている。医療関係、ものづくり産業用途を最優先とするため研究用では既に支障も生じ始めている。

【新規事業】

富山大学研究推進機構の極低温量子科学施設にあるヘリウム液化システムは現在、学内の研究/実験用のみを対象に稼働しており、稼働率をさらに上げることができる。

この余力を活用し、ヘリウムを使用する近隣の他大学や企業を対象に、冷却使用済のヘリウムガスを搬入・受入れし、本システムで液化・搬出することにより、再利用することが可能となる。現在、近隣の大学にて試験的な回収搬出を行っており、今春には地元のヘリウム供給企業と連携し、本格的な新事業としてスタートできるよう準備している。

富山大学 ヘリウム液化回収事業 He不足の対策 (分析機器稼働・研究の支障回避に向けて)

近隣の他キャンパス・大学
・富山大学 (杉谷キャンパス)



【富山大学 研究推進機構 極低温量子科学施設 ヘリウム液化システム】

